

2015年3月下旬  
第2刷出来予定

# photographers' gallery press no. 12

## 特集 爆心地の写真 1945-1952

写真が発明されてから170年以上が過ぎようとしています。平和な家庭生活から戦場や災厄にいたるまで、写真は文字による以上に、時代のあらゆる出来事を記録してきたと言っても過言ではありません。しかし、その意義は思いのほか見落とされているのではないのでしょうか。原爆投下直後の広島を撮影した写真資料もその例外ではありません。

本誌では、1945年から1952年のプレス・コード解除（サンフランシスコ講和条約締結）までを中心に、広島で撮影された写真をあらためて見直し、詳細に検証していきます。原爆投下当日のキノコ雲下の惨状を唯一撮影した松重美人の5枚の写真、復興初期に制作された写真集『Living Hiroshima』、吉田初三郎による原爆鳥瞰図を収めた英文グラフィック誌『HIROSHIMA』。占領下での廃棄や接収あるいは決死の秘匿を経て、現在にまで残された写真資料を、わたしたちはどのように受け止めることができるのか。広島での調査取材をもとにした座談会や書き下ろし論考により、写真そのものから問い直す試みでもあります。

“埋もれかけた写真資料に光をあてる意欲的な企画だ。”

— 《原爆写真の意味、問う出版 被爆当日の広島、写真5点も収録》「朝日新聞」2014年12月23日

“原爆投下から70年の節目を迎える今、繰り返し凝視すべき光景がここにある。原爆写真のみならず、写真の見方そのものを変える力をもった一冊である。”

— 《凝視すべき極限下》田中純氏「読売新聞」2014年12月25日書評欄

“写真家や研究者が執筆者は全員が戦後生まれで、当日の惨状をとらえた記録の意味を、丹念に考察する。（…）鳥瞰図で知られる吉田初三郎がピンク色で描いたキノコ雲は衝撃的だ。”

— 「毎日新聞」2015年1月13日夕刊

《写真家機関誌特集:空白の7年間に焦点、被爆地の写真を検証》

“何が起きたのかも分からない茫然自失の混乱のなかで、逡巡を重ねながらシャッターを押す身体の震え、その微小な身ぶりによって「失語」の状態そのものが記録されたという奇跡にあらためて驚くこと。（…）被爆の当事者による「爆心地の写真」から歴史を掘り起こそうとする本書の企画はそこにまず定位されるだろう。”

— 《「言葉失う」経験を刻む》八角聡仁氏「中国新聞」2015年1月4日書評欄

B5判 (W182xH257mm) / 188頁

発行責任:北島敬三 編集責任:笹岡啓子

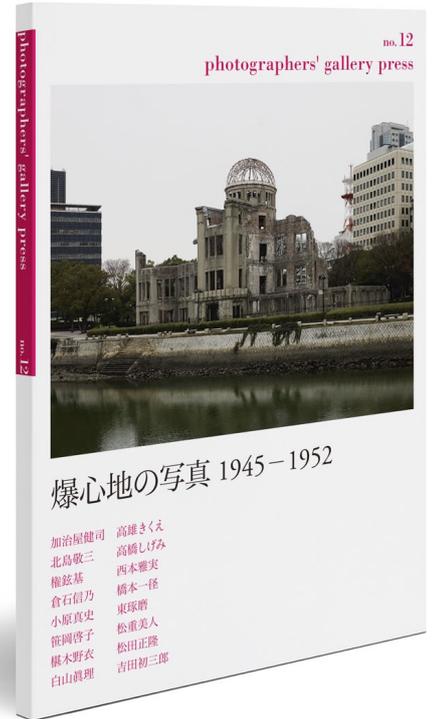
定価: 本体2500円+税

発売: 2014年11月刊

**写真** 松重美人《松重美人の5枚の写真 / 1945年8月6日》全5カット掲載!

**収録** 吉田初三郎《原爆鳥瞰図》、『HIROSHIMA』一冊まるごと(28頁)収録!

**執筆者** 加治屋健司、権鉉基、倉石信乃、小原真史、榎木野衣、白山真理、高雄きくえ、高橋しげみ、西本雅実、橋本一徑、東琢磨、松田正隆



▲吉田初三郎《原爆鳥瞰図》、『HIROSHIMA』より

▶ご注文はツバメ出版流通まで

**FAX: 03-3721-1922**

TEL:03-6715-6121

<http://tsubamebook.com>

mail:info@tsubamebook.com

貴店名 (番線印)

**photographers' gallery**

<http://www.pg-web.net/>

返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通:川人

**photographers' gallery press no.12**

B5判 188頁 定価2500円+税

ISBN978-4-907865-03-0 C 0072

ご担当: 様

冊